



# 私はしゃがみこんだ

ホワイトボードに、次の四行を書きました。

「いってきます。」

夫が、仕事に出かけていった。

玄関の戸が閉まったとたん、

私はその場にしゃがみこんだ。

「お母さんに、何が起きたと思いますか。」

みんな口々に答えました。

- お腹が痛くなった。
- ストレスがたまっていた。
- 急な病気にかかった。
- 夫が仕事に行って淋しさに耐えられなくなった。
- いつも忘れ物をしている夫がまた忘れ物をしたからあきれた。
- 疲れがたまっていた。
- 閉まったドアに指をはさんだ。

色々な答えが出てきます。

子どもたちの意見が出尽くしたところで、話の全文が載っているプリントを配り、朗読しました。

紹介します。(次ページを読む前に是非続きを予想してみてください。)

「いってきます。」

夫が、仕事に出かけていった。

玄関の戸が閉まったとたん、私はその場にしゃがみこんだ。

体力自慢じまんの夫が体の不調ふちょうを訴えうった、軽い気持ちで受けに行った検査けんさで難病なんびょうが発見され、緊急入院きんきゅうにゅういんしたのは半年前のことだった。

いったい夫はどうなるの？ 私たち家族はどうなるの？

当たり前あたりまえにこのまま続くと思っていた毎日が、突然音を立てて止まった。

自分のよく見なれた世界から突然空気うすの薄い別の世界に、いきなりぽつんと置かれたような心細さ、苦しさが襲おそってきた。

それからの半年は、自分が家族の前で笑顔えんごでいることだけに神経しんけいをそそいだ。夜は心細さに足が震えふるだして眠れなくても、普通に働き、子どもを送り迎えし、食事を作った。

子どもをだっこしているふりをして、本当は自分が子供にしがみついていることで、なんとか正気たもを保っているような状態だった。

そんな日々の中で、夫が退院たいえん。自宅療養じたくりょうようの時期を過ごし、少しずつ、普通の生活しんごうが送れるようになった。

以前は大嫌いだった、混んだスーパーでの日曜日の買い物に、ふたたび家族揃かぞくそろって出かけられた日。車に戻る駐車場で排気ガスに巻かれながら、ありがたさに涙が出て止まらなかった。

「高速道路の運転がしんどい」と、運転ができなくなっていた夫がふたたびハンドルを握にぎって長距離ちようきょりを運転した日。後部座席に子どもと座まってられる自分おれがありがたくて泣けた。

そして、ついに夫が復職ふくしょくする日が来た。

朝起きて、スーツきに着替かえ、会社かいに行く。

今まで、当たり前だと思っていた<sup>こうけい</sup>光景。

「その姿に感謝して泣く日が来ますよ」、と占い師に言われたとしても決して信じなかったと思う。

でも実際、夫が会社に出かけたとたん、私はその場にしゃがみこんでしまった。

人生で当たり前なことなんて、何一つない。

たとえば仕事に行けること、子どもが無事に学校から帰って来ること。

すべてが人生の一大事。

当たり前なんて考えてしまったら、もったいなさすぎてバチが当たる。

毎日、毎日が神さまからの<sup>おく</sup>贈り物。<sup>きせき</sup>奇跡の繰り返しだ。

無くしてから「そういえば、毎日贈り物が届いていたんだ」なんて気がつくなんてもったいない。

自分がいったい毎日どれだけ贈り物を受け取っているのか、ちゃんとわかっていれば、それだけで感謝の気持ちがあふれてくる。

「当たり前」なんて、どこにもないのだから。

読み終えた後、感想を数人に聞きました。

このお母さんですが、お話の中で、「神様からの贈り物」という言葉を使っています。

その言葉が指す内容を列挙すると、次のようになります。

- 「神さまからの贈り物」
- 家族揃って買い物に行けること
  - 車を運転できること
  - 仕事に行けること
  - 子どもが無事に学校から帰って来ること

冒頭のしゃがみこんでしまった場面。  
その時も、何か特別なことが起きたわけではなかったのです。  
お父さんが、いつも通り仕事に行って、ドアが閉まった。  
その日常の場面があまりにありがたく、しゃがみこんでしまったのです。  
このお話を「特別な出来事だ」と感じる人もいるかもしれませんが。  
けれど、何も特別ではないことを教えてくれた過去の出来事が、私たちに  
はたくさんあります。  
社会科の時間に習った数々の大災害。  
現在も各地で続くいくつもの戦争。  
そして、みんなが小学校に入学する前から体験したコロナ禍。  
「当たり前」のように思っていた日常があっという間に一変したことを、  
我々はニュースを通して、新聞を通して、体験を通して知っています。  
もちろん、それらのすべてを実際に今体験することはできません。  
けれど、私たちはイメージすることができます。  
日常を失った悲しさ。  
親しい人との別れの辛さ。  
生きていることの尊さ。  
そして、当たり前の様に過ごしていた日々の素晴らしさ。  
インフルエンザから復帰したばかりの道徳でどうしても扱いたいと思った  
内容だったので、昨日授業してみました。  
ご家庭でも「日常の有難さ」について様々にお話をしていただければあり  
がたいです。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

